

下
福
と
魚
の
紙

^ 13
2900
9 止



13
2900
9

花風情錦延魚笏三編卷之下

東都 松亭金水編次

第十四回

春さうに我身さうぬるまがゆみ人のゆりあや
教りんと。あけゆき良人が能う成今日う整うとせむ
物。まの身あはれ射るまより。早まきまの月あ日
いと永くとまをん。且香そまが動靜の。あやうと
きく人情ゆ。あうねこの身よりあはれい。あやうと

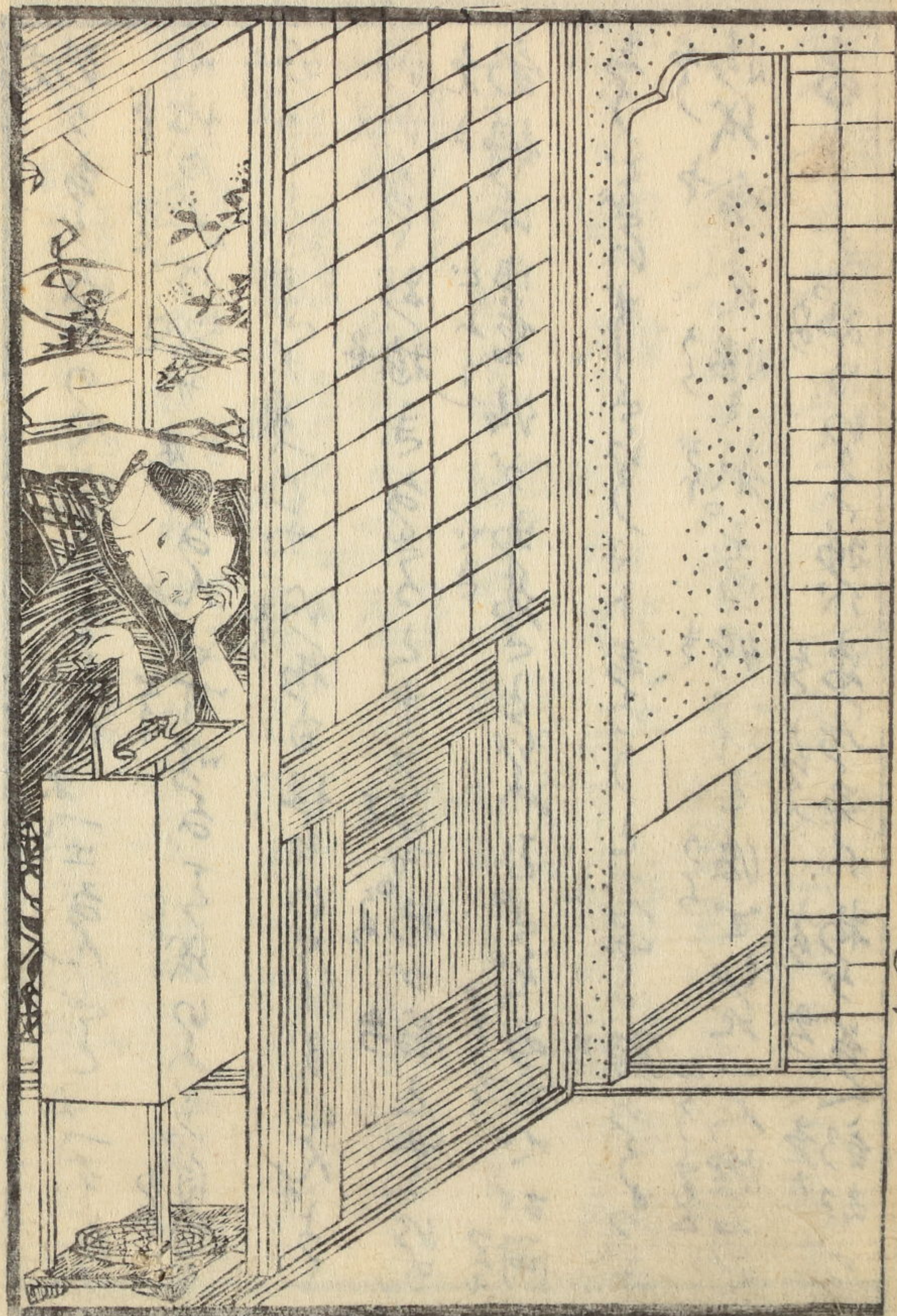
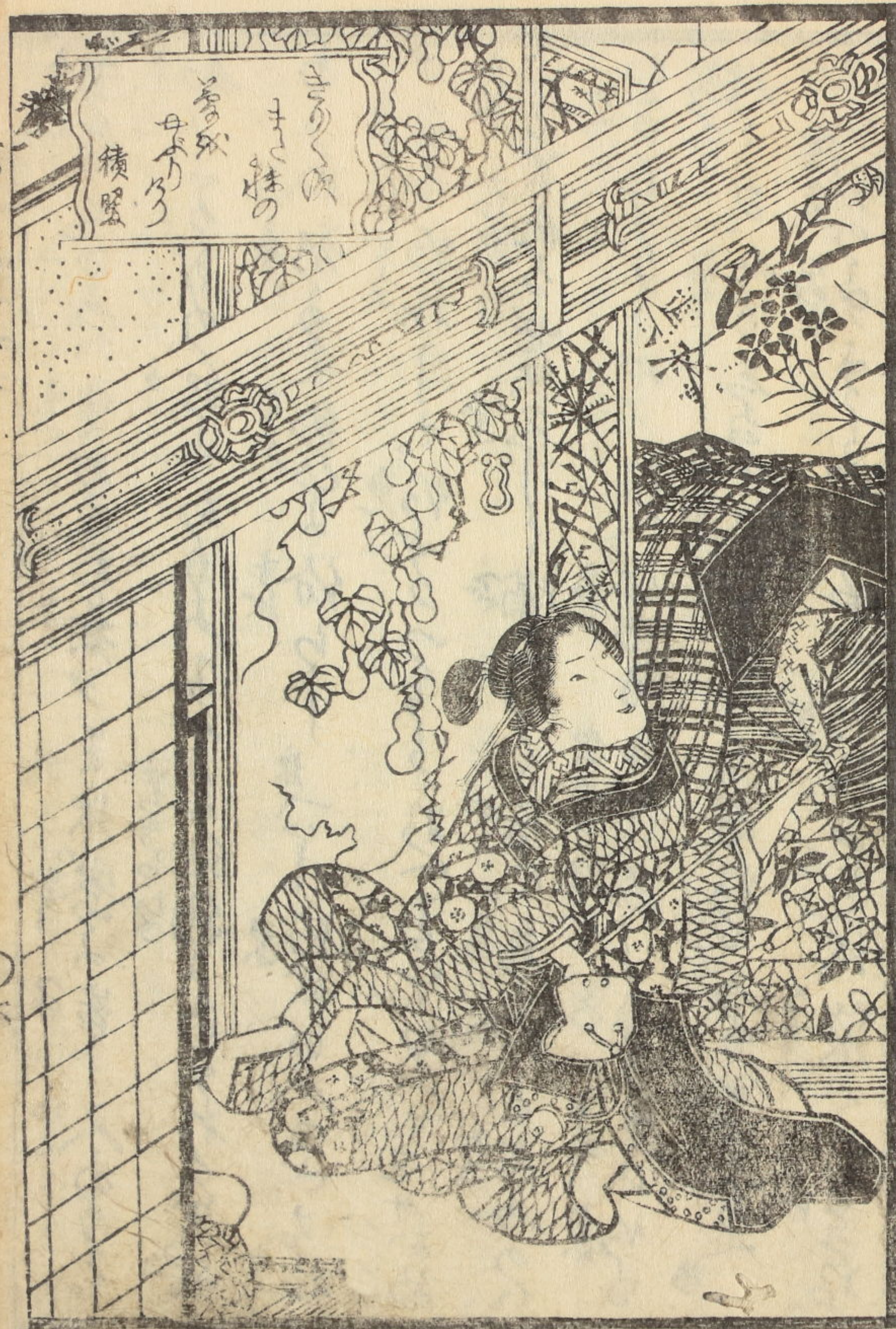
昭和九年
七月五日
購求

人の心をきこりしをゆめ。重なる山小を一人時吟の地
 せうねら。夜毎小濡る枕紙。慈徳ありひの目教ゆく。
 今日後念より忠治身ハゆり来ぬるとり人福小百目
 たりその霖雨。一洒小晴きん晴矢の。白日せりるごとく
 教びん。その清けのたゆみたるふ又の珠を清珠の
 お念。おき人の要念あり。敬とことこのさるまみ。是
 の甲乙出入の人の。とせぬ。安つけん。此あり。置く。一は
 ま心教びの。想ふ。まや。あゆの。ゆるみ。わらう。来り。身ハ

本交津の決獄の人と。一曰ふゆり。本さる。海を清珠あり
 出逢く。まづその恙ありと教ぶ。本さる。身ハ久く
 せぬ。壽長あど福あり。迷やん。悟あり。あつける。海を
 とおと。あど。本次第。文持。海を清珠あり。その地ら
 小集念より。人々。あつちあり。返田の。遠景。清珠あり。
 海方。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。
 よ。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。
 夜初交の。及ふ。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。
 次第の。中。小。清珠あり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。あつちあり。

源の巻三十一

三十一



如善養肉心也。又と佛の誓も新あつむがくま心
 狭し心と云。今ま心も却り死。信る女子と渾家
 と云。五月も連続あり。慮ひげざり災害のあえ
 も圖り知るべ。今ゆるりもあつむ。若ふがと云ら
 信あらん。とあり人と集る爺親うへ。また大分の信念
 あり。殊小先頃燈籠の。その席みても啼まらる。何ん
 後日の釘も成。空少知小懐へねん。信と云ん
 う得あり。信方も極く系知たまま。先物あり。信へ

ねた。後不報交のあらん。死。信と云ん。進うらうと
 呪吟しん。熱ものあき。お林がをせり。引あかん。一
 指るなるせり。せ。信ふ信ふのう。知るねん。が。そんやア
 ぶ妙他人の志やうり。ど。あちと極ん。信のり。と。そん
 と云らぬのう。人の心も知るねん。物。と。そん
 細ッ。こ。ア。ト。信ん。お。神。へ。と。あ。る。信。あ。う。何。ん。お。へ。た。二。五
 うも。信。ひ。ま。せ。ん。が。子。そ。是。と。わ。ア。西。の。信。そ。ん。心。と。云。ん
 ま。た。の。う。エ。へ。ア。重。云。皮。と。云。ん。と。り。の。り。サ。へ。た。信。心

せむごとのまのまを。粟ぐりくあるある。波収めもまた馬の強
 きん。あのまの愧の上塗るん。とやみののうら心を静めん
 来一ものど波老爺也。年不不復もあつて大人はあ
 収どそりやアおありのり入るうらうら。粟よ帳と出さるも
 軍が。理気あうね。せ方の人々。水は強念の道中使つて
 男と偽ると申す。帳と出さる不仁と。洋判あや人ののまの
 むらうら。多くゆもかも知らん都を月日ぐらうら
 あり不眠と出さるるが宜らう。吹流は男とて。くらえん

甘く波もたまをい。平波老助老爺のおる。波も
 ねくねく操でナ。そつりいとおおねえんくさうら
 心裡小徳兵次。死を静めん。荒糸袋の。林へ考と
 隔まり百麻く。あうじまのまを子。おあねのまを
 波見といえねく。まごおねがまをさうら。まの
 免るまのま。ヨト袋袋合え良人の物。ありあや
 次の方の擲計。まのま。チヤウとト子勝。林へ
 史るるゆりまをう

海防の要三下

〇九

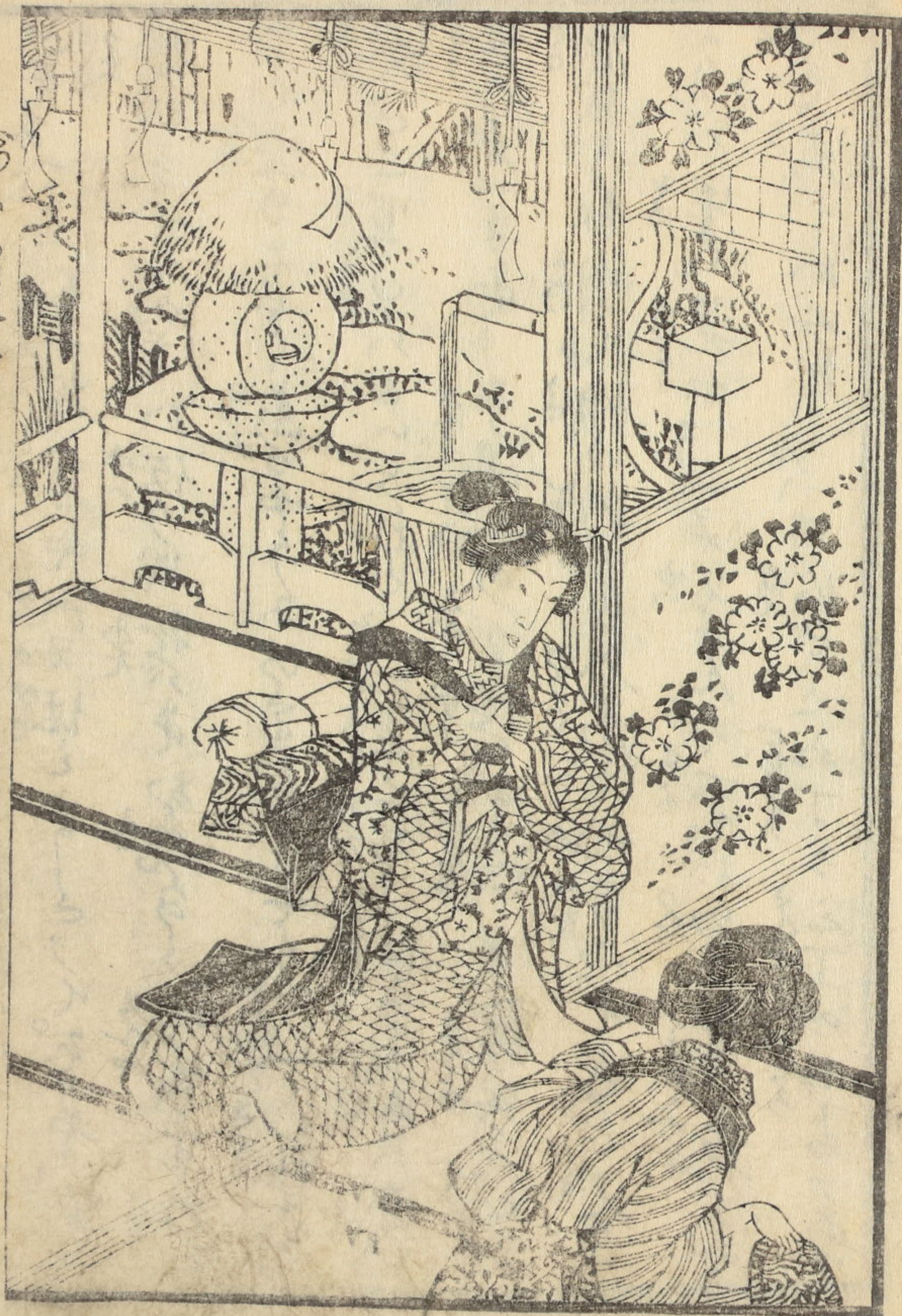
算十五回

是より送らまゝ更小。お補入添金のりも出さば。
紫あゆも控ましく。忠告帯と大切不効り冊まゝ。地
る死まぬ小。少し心成想めら。一月くことさへうちの中。
銀金のと案下ら。息災を形するの者。お成。貸ま
り。まの心成。飛立やう小おり。ども。合算く人ま
あうやと。櫻唄の文由も今小。はまなれ人。人。成
月く小。さ。妙ひお補入元来。伶俐き。此候。まが。家

ま。い。ん。と。と。わ。ど。ん。よ。あ。ふ。長。あ。ま。は。あ。わ。ぬ。實。子。小
飲。持。お。し。あ。と。何。や。う。ん。う。ち。私。地。ん。長。既。の。都。院
添。金。の。持。が。長。の。お。養。入。出。給。事。小。別。と。て。う。う。後。ん
是。候。成。せ。し。身。ゆ。の。精。う。養。一。の。う。う。淋。く。下。女。の
お。養。入。あ。け。くれ。の。云。景。款。小。目。と。送。り。ま。さ。ね。河。内
由。小。車。や。秋。の。もの。風。之。そ。め。ん。疾。を。の。病。り。あ。う
由。何。年。小。は。く。夕。く。ご。と。お。養。入。極。よ。増。長。く。と。成
ま。あ。の。あ。ま。と。う。ち。縁。め。ま。い。お。養。入。あ。う。つ。と。ま。え。ん。る。

海の巻三下

〇社



第の奥三下



おがさくちあつね
こゝろをいふ

みるに下を辨ぬる人のもの。ま
 支る下を。葉なるは
 此の言はく。さう。たねあり。宜が。實は。私に。昔。芳。なる。さう。か
 他へ。大夫。支。決。の。根。原。さ。の。へ。二。串。飲。上。若。ア。さ。い。ヨ。他。へ。て
 重。く。ト。嘲。ま。せ。り。あ。る。を。文。と。去。ま。ま。の。射。ん。ぬ。ん
 此。を。辨。ぬ。ま。う。せ。る。見。を。交。わ。ん。今。宵。ハ。あ。ふ。ゆ。り
 に。後。の。流。体。成。做。し。ぬ。けり

錦の魚三編卷之下終

